# 初級日本語教科書における授受動詞の補助動詞用法
## ——提出順序と格助詞の取り扱い方を中心に——

森川結花

甲南大学 国際交流センター
神戸市東灘区岡本８－９－１, 658-8501

**概 要**

「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」構文の学習を困難にしている原因の一つに格助詞の複雑さがある。格助詞をどのように取り扱えば学習者に無用の混乱を与えず負担を軽減させることができるか，そのためには文型提示のし方はもとより，指導方針として文法シラバスにするのか機能シラバスにするのか，そして学習のどの段階でこの項目を与え，そのために教科書の提出順序をどうすべきかを考えなければならない。そのため本稿では5種の初級日本語教科書を調査して特徴を分析し，初級教科書の理想形について考察した。

キーワード:　授受動詞，格助詞，初級教科書，文型，提出順序

## 1　はじめに

「あげる」「くれる」「もらう」を用いた授受表現は話者の視点，恩恵の方向性，ウチとソトの概念が絡み合った日本語独特の発想に基づいた表現であり，日本語学習者にとっては学習の難所の一つである。姫野（2009）には次のような例がある。

（1）◆会話５　学校で
　山田：京都旅行は楽しかったですか。
　アン：はい，旅行を計画した先生たちにお礼を言いたいです。

ここで姫野（2009）は「『旅行を計画した先生たち』という表現は，事態を話し手とのかかわりの中で捉えたものではないため，旅行に参加した学生という授益的な当事者性がある場合，恩恵を表出していない不適切な文という印象を与えます。…ここは『旅行を計画してくださった先生たち』と表現されるべきところでしょう」としており，このような発話は超上級者にも間々見られるとしている。さらにこのことについて，「授受動詞に方向性が組み込まれていること自体が非常に珍しいのに加えて，これが補助動詞になることは世界の言語の中でかなり特異なものであるようで，授受動詞の理解・習得をさらに難しくしていますが，逆にこれを習得すると格段に自然な日本語になります」としている。確かにこの結論には間違いはないと思われるが，学習者

にとって授受動詞の補助動詞的用法の習得が困難なものであることの原因は，「その発想が母語にはないから」というだけなのであろうか。

筆者が毎年のように日本語初級クラスで悩ましく思っているのは，授受動詞の補助動詞的用法，つまり，「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」構文において文中に現れる格助詞の取り扱いである。まず，本動詞としての授受動詞に関しては，次の文型を提示して定着を図る。

（2）N1（与益者）は　N2（受益者）に　N3（物）を　あげる／くれる
　　N2（受益者）は　N1（与益者）に　N3（物）を　もらう

つまり，述部の動詞が「あげる」「くれる」の時のニ格は受益者，「もらう」の時のニ格は与益者と定着させるのである。さて，その次の段階に学習を進めて授受動詞の補助動詞的な用法の文型を導入するわけであるが，よほど気を付けて導入しないと（3）のような例文に出会った時，学習者は混乱してしまう。

（3）　わたしは　カリナさん<u>に</u>　CDを　かして　あげました。
　　カリナさん<u>を</u>　駅まで　送って
　　カリナさん<u>の</u>　自転車を　しゅうりして
　　（『みんなの日本語初級Ⅰ』第24課練習A　下線部筆者）

「あげる」の受益者はニ格でマークされるべきと叩き込まれたはずなのに，学習者は「あげる」が補助動詞として用いられる（3）の例文を見て，受益者である「カリナさん」の後に「に」「を」「の」のような様々な格助詞が現れるという言語事実を突きつけられるわけである。このことは「くれる」が補助動詞として用いられるときも同様であるが，一方で「もらう」は補助動詞になっても「受益者は　与益者に　Vてもらう」という一定の構文形式を保つ。学習者から見ればこのような不規則で不合理な言語現象は受け入れがたく，しかも，その格助詞が宿題やテストなどで虫食い問題となって学習者を困らせる題材となるわけで，学習者にとってはどうしても好きになれない項目がまた一つ増えたという印象しか残らないだろう。このような負担を与えることなく，学習者にすんなりと「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」を提示・導入するにはどのようにすべきだろうか。

本稿では，「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」構文に現れる格助詞について現行の初級日本語教科書ではどのように扱われているかを調査し，問題点を指摘した上で，学習者が授受表現の本質を理解して受け入れ，実際にどんどん使っていきたいという気持ちにさせる導き方はどうあるべきか，先行研究の成果も踏まえつつ考えてみたいと思う。

## 2　先行研究

「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」構文において学習者を悩ませるのは格助詞のニである。「～てあげる」「～てくれる」文の受益者は必ずしもニ格でマークされるとは限らず，例文（3）で見た通り，受益者は「に」「を」「の」でマークされることもある。さらに「と」でマークされることもある。

（4）みゆきは，泣いてすがる啓太と結婚してやった。（山田2004：87）

大曾（1983）は「～てあげる」「～てくれる」の受益者は，「具体的，または抽象的な物，あるいは五感に訴える何か（声，音，香りなど）が，好意と共に好意の受け手に向かって移動すると考えられるときにのみ，ニ格名詞句を使って好意，および上記の物の受け手を表すことができる」とし，ニ格名詞句で表せないものは「～のために」「～の代わりに」「～に代わって」のような複合助詞で表されるか，「―て」の前の動詞が本来とるヲ格，ト格，ノ格で表されるとまとめている。

（5）花子は　(a)*太郎に
　　(b)太郎と　　一緒に走ってやった。
　　(c)太郎のために　　（大曾1983）

山田(2004)は，テヤル／テクレル受益文は

（6）［僕はXのために［僕が　太郎に　本を　送る］ - てやった］

のような2層構造を持ち，事態の中核をなす動詞が要求する必須の名詞句がそのまま受益者である場合，格表示もそのままヲ格，ト格，ニ格で表され，名詞句を必須的に要求しない自動詞については，受益者を表すためにノタメニ格を用いるとしている。またテヤル／テクレルの前につく動詞が作成動詞（編む，焼くなど）の場合や持ち主のテヤル／テクレル受益文においてはニ格表示もある程度容認できることを母語話者への語感テストを通して証明している。

（7）僕は，子供たちにセーターを編んでやった。（山田2004:90）
（8）僕はおじいさんに肩を揉んでやった。　(同：93)

大曾（1983），山田（2004）の二つの先行研究から言えることは，どちらも「～てあげる」「～てくれる」構文の受益者格の表示について，ニ格がベースにあるとしていることである。しかし，たとえ言語研究の上ではそのように結論づけられても，初級の日本語学習者を前に，「ベースはニ格だが時と場合によってヲ格，ト格，ノ格に替わる」という提示の仕方は無用の混乱を招くだけで有益な情報とはならない。ただ，教師用文法指導参考書，学習者向け文法解説参考書も先行研究の成果を踏まえてか，「～てあげる」「～てくれる」文中の格助詞に関しては，もとの動詞が本来とる助詞が現れるために，二格，ヲ格，ノ格が現れるとして，ありうる形式を網羅的に示すという姿勢で記述している（松岡・庵・中西・高梨（2000），市川（2005），友松・和栗（2004））。

一方，以上のような結論とはまた違う見解を展開しているのが渡辺(1993)，および，倉光・日高（2004）である。渡辺（1993）では，「「あげる（やる）」「くれる」が補助動詞の場合は基本的に『に名詞句』は伴わない。『に名詞句』は基本的には補助動詞に先行する動詞に伴う」としており，倉光・日高（2004）も全面的にこれを支持している。この点に関しては，本稿も実践経験から得た知見からこの渡辺(1993)を支持する。もし，この構文情報を文型として表すとすれば，以下のように示せる。

(9) [　（もとの文）　V　]＋　てあげる／てくれる

この構造は，「～ておく」「～てしまう」「～てみる」等，動詞のテ形に続く他の補助動詞構文と何ら変わらない。したがって，「～ておく」「～てしまう」「～てみる」の構文で学習者が助詞に関して頭を悩ませることがないのと同様に，「～てあげる」「～てくれる」文でも（9）の構文を提示することで，文中に現れる格助詞の“からくり”を理解しやすくし，無用の混乱とそれに伴う心理的な負担を軽くすることができるのではないかと思う。

## 3 初級日本語教科書における「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」

### 3.1 調査対象とした初級日本語教科書

つぎに、実際に教育現場で使用されている初級日本語教科書の中で「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」構文とその関連項目がどのように取り扱われているかを見てみよう。ここで調査の対象とした教科書は次の5種である。

表１：調査した初級日本語教科書

| 教科書タイトル | 略称 | 著者／編著者 | 刊行年 |
|---|---|---|---|
| 『みんなの日本語初級Ⅰ　第２版』<br>『同Ⅱ　第２版』 | みんな | スリーエーネットワーク | 2012<br>2013 |
| 『初級日本語　げんきⅠ　第２版』<br>『同Ⅱ　第２版』 | げんき | 坂野永理、池田庸子、大野裕、品川恭子、渡嘉敷恭子 | 2011<br>2011 |
| 『できる日本語初級』<br>『同初中級』 | できる | できる日本語教材開発プロジェクト | 2011<br>2012 |
| 『まるごと　日本のことばと文化』入門、初級１、初級２、初中級 | まるごと | 国際交流基金 | 2013<br>2015 |
| 『つなぐ日本語初級１』『同２』 | つなぐ | ヒューマンアカデミー日本語学校教材開発室 | 2016 |

これらの教科書のうち『みんな』『げんき』は従来からよく使われている，いわゆる“定番”教科書である。どちらも近年改訂された第２版を調査する。『できる』『まるごと』『つなぐ』は出版されてからまだ日が浅く，最新の研究成果と現場での知見の積み重ねが大いに反映されているものと期待できる。

では，まず，各教科書における授受動詞関連事項の提出順序を概観し，次に，それぞれの教科書の構文提示のやり方を見てみよう。

### 3.2 初級日本語教科書における授受動詞関連事項の提出順序

各教科書における授受動詞関連事項の提出順序を表２に示す。

表２：語初級レベルの教科書別授受動詞関連事項の提出順序

| 教科書 | 巻 | 課 | 文型 |
|---|---|---|---|
| みんな | Ⅰ | 7 | あげる、もらう |
| | | 14 | Vてください |
| | | 17 | Vないでください |
| | | 24 | くれる、Vてあげる、Vてくれる、Vてもらう |
| | Ⅱ | 41 | いただく、くださる、やる<br>Vていただく、Vてくださる、Vてやる<br>Vてくださいませんか |
| げんき | Ⅰ | 6 | Vてください |
| | | 8 | Vないでください |
| | Ⅱ | 14 | あげる、くれる、もらう |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 16 | Vてあげる、Vてくれる、Vてもらう<br>Vていただけませんか、Vてくださいませんか、Vてくれない？ |
| | | 19 | お～ください、Vくれてありがとう |
| | | 22 | 使役＋あげる／くれる |
| できる | 初級 | 2 | Nをください |
| | | 7 | Vてください |
| | | 8 | あげる、くれる、もらう |
| | 初中級 | 2 | Vてもらえませんか |
| | | 5 | Vていただけませんか |
| | | 8 | Vてあげる、Vてもらう、Vてくれる<br>いただく、くださる<br>Vていただく、Vてくださる |
| | | 13 | Vせてくれる、Vせてもらう |
| まるごと[1] | 入門 | 15 | あげる、もらう |
| | | 16 | Nをください |
| | 初級１ | 6 | Vてください |
| | | 9 | Vてくださいませんか |
| | | 17 | もらう、あげる |
| | 初級２ | （なし） | |
| | 初中級 | 4 | くれる、Vてくれる、Vてもらう |
| | | 6 | Vてあげる |
| つなぐ | 1 | 2 | ～（を）ください、～を～【数】ください<br>～と～（を）ください<br>～を～【数】と～を【数】ください。 |
| | | 9 | Vないでください、Vてください |
| | | 11 | あげる、もらう<br>Vてもらう、Vてあげる、Vていただく |
| | | 12 | Vてください、Vていただけませんか、<br>Vてくれない？ |
| | 2 | 24 | くださる、くれる<br>Vてくださる、Vてくれる、Vていただく |
| | | 28 | お～ください、ご～ください |
| | | 29 | ～（さ）せていただけませんか |

以上から，初級日本語教科書ではおおむね，

①Nをください
②Vてください　／　Vないでください
③本動詞あげる，くれる，もらう
④補助動詞的用法　Vてあげる，Vてくれる，Vてもらう
⑤本動詞くださる，いただく

[1]『まるごと』に関しては、中級１で「Ｖさせてください」「Ｖていただけますか／いただけませんか」「お・ごＶください」「Ｖさせていただく」中級２で「Ｖてもらえない？・Ｖもらってもいい？」が提出される。

⑥補助動詞的用法　Vてくださる，Vていただく，Vてやる
⑦Vてくれない？，Vてくださいませんか，Vてもらえませんか
⑧Vさせていただけませんか

の順に提示されるということがわかる。また，どの教科書も「あげる」系の「やる」「さしあげる」「Vてやる」「Vてあげる」「Vてさしあげる」については一部割愛するなど，慎重を期した取り扱いをしている[2]。それに対して，積極的に扱おうとしているのが，依頼表現「～てください」の待遇表現である⑦の「～てくださいませんか」「～てもらえませんか」「～てくれない？」で，『できる』『まるごと』『つなぐ』のような機能シラバスを重視する教科書では⑤⑥に先んじて学習者に提示する。

以上のように概観してみると，『みんな』や『げんき』のように，本動詞→補助動詞→依頼表現というオーソドックスな順序段階を踏むことが近年変わってきていることがわかる。では，次にそれぞれの教科書における「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」構文について，特に「～てあげる」「～てくれる」の格助詞をどう扱っているかを中心に見ていきたい。

## 3.3　『みんなの日本語初級Ⅰ　第2版』『同Ⅱ　第2版』

『みんな』は文法シラバスが主流だった時代を踏襲したもっともオーソドックスでかつ一般の普及率も高い日本語教科書である。その第2版はⅠが2012年，Ⅱが2013年に出されており，体裁は文法シラバスの型がそのまま残っているが，改訂が加えられたところも随所にみられる。授受動詞構文に関しても以下のように改訂前後で変化が見られる。

(10) 3　わたしは　カリナさんに　CDを　かして　あげました
　　電話番号を　おしえて
　　ことばの意味を　せつめいして
　4　わたしは　山田さんに　大阪城へ　つれていって　もらいました
　　ひっこしを　てつだって
　　旅行の写真を　みせて
　5　山田さんは　わたしに　地図を　かいて　くれました
　　コーヒーを　いれて
　　おふろの入り方を　せつめいして
　　(『みんなⅠ』第1版 第24課 練習A)

(11) 3　わたしは　山田さんに　旅行の写真を　みせて　もらいました
　　大阪城へ　つれて行って
　　引っ越しを　てつだって
　4　山田さんは　旅行の写真を　みせて　くれました
　　大阪城へ　つれていって
　　引っ越しを　てつだって
　5　わたしは　カリナさんに　CDを　かして　あげました
　　カリナさんを　駅まで　おくって
　　カリナさんの　自転車を　しゅうりして
　　(『みんなⅠ』第２版第24課 練習A)

改訂ポイントをまとめておくと，第1版では

[2] これは後述する庵（2011），田中（2012）等の研究成果を踏まえてのことと思われる。

(12) N１（人）は　N２（人）に　N3を　～てあげる・くれる・もらう

と全てを一絡げにまとめていた文型提示が，第2版では

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| (13) | N1（人）は | N2（人）に | N3 {を・へ} | ～てもらう |
| | N1（人）は | | N3 {を・へ} | ～てくれる |
| | N1（人）は | N2(人){に・を・の} | N3 {を・まで} | ～てあげる |

と多様化させていることが指摘できる。第2版の方がより言語事実に即しており研究の裏打ちもあるものになっているが，学習者にとっての理解しやすさ・受け入れやすさという点を考えると負担はさらに大きくなっていると言わざるをえない。この点に関して，教師用指導書である『みんなの日本語初級Ⅰ第2版　教え方の手引き』（2016）には，「「～てあげます」の行為の受け手は「～て」の動詞によって異なる」ので，「元の動詞に伴う助詞を語彙導入時の時点からしっかり抑えておく必要がある」（同：204）としている。

文型練習では

(14)　傘を　貸します（佐藤さん）　→　佐藤さんは　傘を　貸して　くれました。
（『みんなⅠ』第2版　第24課 練習B 5）

のように，単純に動詞に「～てくれます」をつけて文を作らせるドリル練習もあるが，

(15)　例：おじいさん・道を　教えます
→わたしは　おじいさんに　道を　教えてあげました。
１）タワポンさん・友達を紹介します　→
２）太郎君・飛行機の　雑誌を　見せます　→
３）おばあさん・病院へ　連れて　行きます　→
４）テレーザちゃん・自転車を　修理します　→
（『みんなⅠ』第2版　第24課練習B 7）

のように，受益者をマークする格助詞を考えさせて文を作らせる練習もあり，教科書の方針として格助詞も正しく定着させようとしていることがわかる。

なお，『みんなⅡ』で扱う待遇表現の「～てやります」「～てくださいます」「～ていただきます」に関しては「～てくださいます」の主語（与益者）の助詞が「は」→「が」になったという変更点以外は，微細な変更しか見られなかった。

## 3.4 『初級日本語　げんきⅠ　第2版』『同Ⅱ　第2版』

『げんき』では，「～てあげる」の形式は元の文意を変えず，その行為が“on demand”または“as a favor”として遂行されたことを表すために用いられるとして，元の文と対比させて提示されている。

(16) 私は妹にお金を貸して<u>あげました</u>。
I (generously) lent my sister money ( to help her out of her destitute conditions).
cf. 私は妹にお金を貸しました。[ an objective statement ]
きょうこさんはトムさんを駅に連れて行って<u>あげました</u>。
Kyoko (kindly) took Tom to the station ( because he would be lost if left all by himself).

cf. きょうこさんはトムさんを駅に連れていきました。[ an objective statement ]
(『げんきⅡ』第16課文法 Grammar 1)

「～てくれる」は行為がus（私たち）になされるものであり，「～てもらう」は私たちが行為の受け手になるときに使われ，行為の遂行者は助詞「に」でマークされる。そして，「くれる」と「もらう」は同一の事象を主語を違えて表したものだとしている。

(17) 私は友だちに宿題を手伝ってもらいました。
友達が宿題を手伝ってくれました。 (『げんきⅡ』第16課文法 Grammar 1)

「あげる」の文中では本動詞が本来取る格形式がそのまま残るが，恩恵性を持たない動詞の文で特に恩恵を示したいときには「～のために」を用いればよいと注釈している[3]。そして，これは「くれる」文についても同様のことが言えるとしている。

『初級日本語げんき 教師用指導書 第2版』では，文法上の留意点として，「『～てあげる』と『～てくれる』の時は，『トムさんに連れて行ってあげました』のようにいつも受益者に『に』を使ってしまう学生もいるので，必ずしも『に』とは限らないことに注意する。『～てあげる』『～てくれる』の練習だけで手一杯で助詞を覚えるのが大変な学生には，受益者は省略しても状況からわかる場合が多いので，助詞を気にしなくてもいいことを説明し，省略して練習させればよい」(同：92) としている。実際の文型練習では

(18) ご飯を作る（お母さん）[4]
お母さんがご飯を作ってくれました。／お母さんにご飯を作ってもらいました。
(『げんきⅡ』第16課練習Ⅰ－E)

(19) do laundry
→ A：洗濯してくれますか。
B：ええ，もちろんしてあげます。[5]／いいえ，自分でしてください。
(『げんきⅡ』第16課練習Ⅰ－F)

のように，受益者の格助詞が何になるかよりも同一事象を「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」でどう表し分けるかを考えさせるものが多い。

## 3.5『できる日本語　初級』『同　初中級』

『できる』は教科書の方針として文法解説をせず，状況および例文の提示と練習によって学習

---

[3]『げんきⅡ』第16課　p.100の脚注：Note that in あげる sentences the nouns referring to the beneficiaries are accompanied by whatever particle the main verb calls for. 貸す goes with the particle に, while 連れていく goes with を. These particles are retained in the あげる sentences.
When you want to add the idea of "doing somebody a favor " to a verb which does not have the place for the beneficiary, you can use ～ために.
私はともこさんのために買い物に行きました。　Cf. 私は買い物に行きました。
I went shopping for Tomoko.

[4] 実際にはイラストを見て，文を作るようになっている。

[5] 本稿の筆者はこの文には違和感を感じる。

者が自ら文法概念を理解し，習得していくように仕向ける。新出文型の例文は巻末にまとめのような形で提示されており，文型導入時に使用するものとして扱うかどうかの指定はないが，以下にその例文を示しておく。

(20) N（人）に　Vテ形　あげます
パクさんはワンさんにDVDを貸してあげました。
ナタポンさんはマリアムさんを家まで送ってあげました。
マルコさんはアンナさんの自転車を修理してあげました。
N（人）に　Vテ形もらいます
私は田中さんに料理の作り方を教えてもらいました。
N（人）に　Vテ形くれます
パクさんが（私に）韓国の料理を作ってくれました。
西川さんが（私を）浅草へ連れて行ってくれました。
カルロスさんが（私の）荷物を持ってくれました。
N（人）に　Vテ形いただきます
私は社長に有名な日本料理の店へ連れて行っていただきました。
N（人）に　Vテ形くださいます
木村さんが京都のガイドブックを貸してくださいました。
（『できる初中級』ポイント一覧）

これで見ると，「～てあげる」「～てくれる」文の受益者が「N１（人）に」に固定されているような提示になっているが，例文では「～てあげる」「～てくれる」文中の受益者がニ格，ヲ格，ノ格でマークされるものをあげている。ここに齟齬のあることの意図は明白ではない。学習者が実際に練習する文型練習（置き換えドリル）では，受益者の格がニ格，ヲ格，ノ格になる場合にわけて丁寧に練習させる。

(21) マルコさん（私）はパクさんに席を譲ってあげました。
マルコさん（私）はワンさんを家まで送ってあげました。
マルコさん（私）はアンナさんの仕事を手伝ってあげました。
（『できる初中級』別冊第８課１）

(22) アンナさんが（私に）ロシアの料理を作ってくれました。
アンナさんが（私を）家まで送ってくれました。
アンナさんが（私の）宿題を手伝ってくれました。（『できる初中級』別冊第８課３）

このように，文型練習では受益者格と元の動詞の関係を示し，現れる格の形を網羅するが，会話練習では，カジュアルな会話の状況下で受益者格を省略した形式を練習をさせる。たとえば「～てあげる」は次のような練習になる。

(23) A:Bさん，週末，何（を）した？
B:写真（を）撮りに行った。
A:ふーん，どこへ行ったの？
B:高尾山。きれいだったよ。
A:へーえ。写真（を）見たい。
B:じゃ，今度見せてあげる。
A:ありがとう。　（『できる初中級』第８課－１　言ってみよう）

「～てくれる」の会話練習では受益者格は省略し，それよりも与益者のガ格を表現上に表すこ

とに力点を置いた練習をさせる。

(24) A:B さん，週末，何（を）した？
B:新宿へ映画を見に行った。
A:それが，財布をなくしちゃって，大変だったんだ。
B:えっ？
A：でも，拾った人が交番に届けてくれたんだ。
B:へえ，よかったね。　（『できる初中級』第８課－１　言ってみよう３）

また，「～てくださる」に関しては機能重視で，目上の人に感謝を述べる「～てくださって，ありがとうございました」の形で練習させる。この文中には受益者格が現れることはない。

(25) A:B さん，この間は日本料理の作り方を教えてくださって，ありがとうございました。
B:いいえ，どういたしまして。　（『できる初中級』第８課－２　言ってみよう４）

以上，『できる』は教科書のスタンスとして，文法事項の一部を捨象して学習者に与えるということはせず，全体を網羅した形で与えて学習者の気づきを促すという形で理解を図り，そのうえで誤用を招かないでスムーズに産出していける練習と機能的な用法の練習をさせようとしているということができよう。これは良心的な方針だと評価できるが，キャパシティの少ない学習者の場合は，『できる』でも『みんな』や『げんき』と同様の負担をしいられることがあるだろう。

## 3.6　『まるごと 日本のことばと文化 入門』，『同 初級１』，『同 初級２』，『同 初中級』

『まるごと』は文型に最小限の英語による注釈を加えた形で新出文型が示される。「～てくれる」の用法は『まるごと　初中級』トピック４で，本動詞「くれる」とともに導入される。

(27)　N（ひと）は／が　V-て　くれます　　アニスさんが家によんでくれました。
Someone(N) does something especially for me.（利益・恩恵を与える）
（『まるごと　初中級』トピック４　読んでわかる）

「～てくれる」の練習としては，(28) のような空欄補充の聴解練習と，簡単な応答練習一題のみである。ただ，受益者格について見るとヲ格，ノ格，そしてト格で現れる文が仕込まれている。

(28)（１）アニスさんはとても親切な人です。
①アニスさんは私を家に（よびました→　よんでくれました　）。
②住所と電話番号を（書きました→　　）
③私の家まで車で（むかえに来ます→　　）
④いちばに（つれていきます→　　）
（２）坂本さんはとてもやさしい人です。
①坂本さんはおみやげを（　もってきてくれました　）
②いちばで買い物をするとき，（　　）
③兄の子どもと（　　）
④うちの料理を何でもおいしいと言って（　　）

・最近うれしかったことを言いましょう。　友だちが誕生日に電話してくれました。
（『まるごと　初中級』トピック４　よんでわかる）

「～てもらう」も「～くれる」と扱いは同じである。以下，文型提示と練習問題の一部をあげておく。

(29) N（ひと）に　V-て　もらいます
Have someone(N) do something ( for me ) .　(利益・恩恵を受ける)
(30) 週末，アニスさんとご家族にお世話になりました。
①インドネシア語がわからないので，ご両親にゆっくり（ d　はなしてもらいました）
②お兄さんのカメラで写真を（　　）
③そして，その写真をメールで（　　）
④アニスさんにインドネシアの音楽の CD を（　　）
｛ a 送りました　　b 貸しました　　c とりました　　d 話しました ｝

・最近だれに何を頼みましたか。言いましょう。
友だちにマンガを貸してもらいました。
（『まるごと　初中級』トピック４　よんでわかる）

「～てあげる」は課を一つはさんでトピック６で取り扱われる。「～てあげる」の文型は動詞のテ形に補助動詞がつくことのみを提示し，共起する格助詞に関しての情報はない。

(31) V－てあげます
（私は）のりかの願いを聞いてあげます。
Indicating that the subject performs an action that he/she considers beneficial for someone(利益・恩恵を与える)
(32) 結婚する二人のために，どんなことをしてあげますか。
①フリオ：友だちみんなでパーティーをして，ふたりの結婚を（a いわってあげます）
②森　　：結婚式の前は忙しいので，じゅんびを（　　あげます）
③おばあさん：のりかは私のかわいいまごです。
何があっても結婚式に（　　あげたいです）。
④パウロ：結婚式の日，ふたりのビデオを（　　あげようと思います）。
のりかさん，きれいでしょうね。
⑤ロザナ：私は，結婚式でピアノを（　　あげようと思います）。
今，ふたりの好きなきょくを練習しています。
｛ a　祝います　b　出席します　c　てつだいます　d　ひきます　e　とります ｝

・きょうだいやしたしい友だちが結婚するとき，何をしてあげますか。
（『まるごと　初中級』トピック６　よんでわかる）

この後，やはり聴解で「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」のうちの正しい形を選ぶ二択問題があり，それで総合練習となっている。

本稿が調査した中で『まるごと』は「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」をもっとも控えめに取り扱っているが，これには習得研究の裏付けとそれに基づいた文法シラバスがあるものと思われる。控えめな提示ゆえに学習者への負担と誤解・誤用を生む恐れも少ないということは言えるだろう。そして，ここから学習者の積極的な産出活動を導くかどうかは現場の教師に一任されているということであろうと思われる。

## 3.7『つなぐ日本語　初級１』『同　2』

『つなぐ』は徹底した機能シラバスに則って作られた教科書である。学習項目の提出順序も独自性が強いが，各課の構成もユニークである。まず場面会話（モデル会話文）から入り，文型練習，応用会話と進んで，まとめの段階で文型が提示される。「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」に関しては11課のセクション１「あげる」「もらう」の本動詞用法を導入した次のセクション２で「～てもらう」を導入し，その次のセクション３の「～ていただいて，ありがとうございました」へつなげる。セクション３では同時に「～てあげる」を導入する。以下は11課のセクション３の場面会話である。

(33) ＜場面会話＞
リ：てつだいましょうか。
なかむら：いいえ，わたしはだいじょうぶです。
　　サラさんを　てつだって　あげてください。
リ：わかりました。
　サラさん，てつだいましょうか。
サラ：え，いいんですか。すみません。ありがとうございます。
　　みなさん，てつだっていただいて，ありがとうございました。
リ　：いえいえ。
なかむら：はやく　おわって，よかったですね。　　（『つなぐ１』Lesson11-3 ）

「～てあげる」の文型練習では，困っている人を眼前にしている状況下で以下の下線部を置き換える練習をさせる。

(34) ①　本をとって**てあげてください**。
②　Aさん，Bさんの　しごとを　（てつだいます→）
③　Aさん，Bさんに　かんじを　＿＿＿＿＿＿＿＿（おしえる）
④　Cさん！　Bさんの　にもつを　＿＿＿＿＿＿！（もつ）
（『つなぐ１』Lesson11-3）

「～てあげる」の次は「～ていただく」の練習になる。

(35) ①　A:おしえ**ていただいて，ありがとうございました**。
B:どういたしまして。
②　A:先生，きょうかしょを（かします→）＿＿＿＿，ありがとうございました。
先生：はい。あしたは　わすれないでくださいね。
③　A:かちょう，きのうは（おくります→）＿＿＿＿，ありがとうございました。
かちょう：ああ，いえいえ。　　（『つなぐ１』Lesson11-3）

以上のような文型練習を経た後で，文型が提示される。

(36) ２．　　てあげてください
本を　とって　あげてください。――はい，わかりました。
なかむらさん，アティさんの　しごとを　てつだって　あげて　ください。
――はい。わかりました。

3．　　ていただいて，ありがとうございました
てつだって　いただいて，ありがとうございました。
きょうかしょを　かして　いただいて，ありがとうございました。
（『つなぐ１』Lesson11-3）

この一連の流れの中で，「～てあげる」文中に現れる助詞に関しては受益者を全く省略する形か，あるいは受益者がニ格またはノ格で現れる文の練習に留める。また，文型提示および練習の焦点は格助詞云々等ではなく，「～てあげてください」という形式にあることは明白である。「～ていただく」にしても，「受益者は与益者に（行為）ていただきます」という文構造に学習者の関心を導くことはなく，目上の人の行為に対してお礼を言う言い方として「～ていただいて，ありがとうございました」を定着させることに重きを置いている。このように，学習者の混乱を招きそうなところはある程度整理する形をとり，「～てあげる」等の文末表現としての機能を重視する形で定着を図ることは一つの見識に基づいた賢明な方法であると思われる。ただ，『つなぐ』のシラバスで疑問を感じるのは，動詞のテ形を導入したばかり（9課）の学習者に「～てあげる」等の表現を導入するのは学習段階として本当に適当なのかということである。機能優先，日常生活の中でのサバイバルに必要な文型から導入するということは理念としては分かるのだが，逆にサバイバルで役に立てばよいというのなら，「先生，本を貸していただいて，ありがとうございました」ではなく，授受表現を省略した「先生，先週は本をありがとうございました」という形でも初級学習者には十分ではないだろうか。

ちなみに，11課以降では，12課で「～んですが，～てください（依頼）」と「～ていただけませんか」「～てくれない？」，そしてしばらく間をおいて24課で「～が～をくださいます」「～が～をくれます」「～が～てくださいます」「～が～てくれます」「～ていただきます」の導入となる。「～てもらう」「～てあげる」と「～てくれる」の間に間を置くというのも一つの見識として賛成できるが，依頼表現文型のバリエーションを網羅してある点に関しては，対象とする学習者の能力に応じて整理する必要が生じるのではないかと思う。

## 3.8 ここまでのまとめ

以上，初級日本語教科書における「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」の取り扱い方を見てきた。教科書の流れとしては，『みんな』や『げんき』のようなオーソドックスな教科書ほど文法シラバスの色合いが濃く残っており，逆に『できる』や『つなぐ』のような後発組は，誤用や学習者の理解を妨げるような要素（すなわち，「～てあげる」「～てくれる」文中の格助詞）を捨象して，文として成立しうるミニマムの形を学習者の前に提示する。

このように見てきた教科書において，どの教科書にも一長一短があり，かつ，教育現場で必ずしも教科書の編著者の意図通りに使用されているとも限らないので，どの一冊がベストであるとは言い切れないのだが，あえて選ぶとすれば，文型提示のスタイルに関しては『まるごと』，練習ドリルは『できる』の会話練習（「言ってみよう」）を支持したいと思う。

さらに，教科書に関して考えておかなければならないのが，学習項目の提出順序である。「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」に関しては，

・そもそも学習段階のどのタイミングで与えるべきか。初級か，初中級か，中級か？
・三つの文型を一挙同時に与えるべきか，ばらばらに与えるべきか？

ということを考えなければならない。最後にそのことについて言及しておきたいと思う。

## 4 「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」をいつ，どのように教えるか？

学習者が「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」を教えても自発的には使えない，文型の理解の際に混乱がある，などの反応を示すのであれば，それは一つには与えるタイミングに問題があるからではないかということが考えられる。

一般的に日本語の授受動詞は，「くれる」の習得が難しいと言われているが，補助動詞的用法に関しては稲熊（2006）が「～てあげる」＜「～てくれる」＜「～てもらう」の順に習得が困難であるとしているが，母語によって，または個人によって，どの形式が難しいとは一概には言えないだろう。しかしながら，使い方の正誤はともかくとして自発的に産出できるようになるのはどのレベルであろうか。

日本語学習者コーパス[6]で中国語母語話者，韓国語母語話者が書いた作文から正用誤用を問わずどれだけ「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」が使われているか（使おうとされているか）調べてみたところ，次のような結果が出た。

表３：「～てあげる」の使用数

| | 初級 | 中級 | 上級 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 中国語 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 韓国語 | 0 | 2 | 1 | 3 |
| 合計 | 0 | 4 | 1 | 5 |

表４：「～てくれる」の使用数

| | 初級 | 中級 | 上級 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 中国語 | 1 | 6 | 6 | １３ |
| 韓国語 | 1 | 6 | １４ | ２１ |
| 合計 | 2 | １２ | ２０ | ３４ |

表５：「～てもらう」の使用数

| | 初級 | 中級 | 上級 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 中国語 | 5 | 4 | | 9 |
| 韓国語 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| 合計 | 5 | 5 | 1 | １１ |

表３～表５の結果から，学習者が自ら積極的に産出しようとするレベルはだいたい中級以降であると考えてよさそうである。

そう考えると，少なくとも「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」を初級と呼ばれるレベル内に全部押し込めてしまうのは，学習者の習得を無視して無理を強いているということになるだろう。庵（2012）が「初級が重すぎる」というのもうなづける。

庵（2011） は

(37) 本動詞用法だが，「やる」は使用域を狭めつつあるので，少なくとも初級で導入する必要はない。…次に「あげる，くれる，もらう」だが，『げんき』のようにこの三者を同時に導入するのは無用の混乱を招くだけなので，先に「あげる」と「もらう」を

[6] http://sakubun.jpn.org

導入し，その後「くれる」を導入した方がよい。

(38) 補助動詞用法では，「～てあげる」は適切に使うことが難しく，かつ，必須とも言えないので，初級では導入せず，中級以降に回す方がよい。

(39)「～てもらう」は恩恵を表すのはもちろんだが，ボイス的な機能も重要であるので，使役や間接受身を扱う際に併せて扱うのが望ましい。

また，田中（2012）は授受表現の導入に関して次のような三つの提案をしている。

(40) 早く習得しやすい「～てくれる」を「～てもらう」より先に教えてはどうか。

(41) 初級教科書から「～てあげる」系を切り捨ててはどうか。

(42)「～てくださる」「～ていただく」などの敬語形式は，初級で必要だろうか。

そして，先に見てきた初級日本語教科書の中で，庵（2011），田中（2012）の主張するポイントをより多く実現しているのは『まるごと』である。項目の提出順序，文型の提示の仕方には研究成果に基づいた工夫が認められる。ただし，研究成果に基づいた理想を具体化した教科書が現実の教育現場にフィットするかどうかはまた別の問題であろう。たとえば，筆者が実際に日本語教育に携わっている教育現場では『できる』を使用している。『できる』は「あげる」「くれる」「もらう」を一括りにして一つの課で提出していることので，学習者の能力によっては負担もある。しかし，同時に「～てもらう」の依頼表現形式を「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」の導入前に提示したり，「～てくださってありがとうございます」という感謝の表現を提示するなど授受表現の機能的な用法にも積極的で，かつ格助詞の混乱を避けるための工夫を会話練習（言ってみよう）に施すなどの配慮がある。その配慮に従って学習活動を進めていくと，学習者は格助詞に拘泥することよりも動詞に「～てあげる」等をつけようとする方に意識を向けるようになっていくようである。今のところは『できる』を教科書として採用してまだ年数は浅いのだが，今後も実践を積み重ね，データをとっていきたい。

以上，今後の初級日本語教科書に望むことは，理論上，あらまほしい提出順序で学習項目が提示されることだけでなく，学習者にとって負担の大きくなりがちな点（たとえば「～てあげる」「～てくれる」文中の格助詞）に学習者を拘泥させないような配慮があること，かつ，学習者の動機づけを高め，積極的な産出につながる学習活動を提供してくれることである。ここで論じた授受表現のみならず，全学習項目にわたって提出順序と学習者への配慮がなされた教科書の出現（あるいは現行の教科書の改訂）が待たれるところである。

## 参考文献


[1] 庵功雄（2011）「日本語教育から見たやりもらい表現」『日本語学』vol. 30-11，pp. 50-58

[2] 庵功雄(2012)「文法シラバス改訂のための一試案――ボイスの場合」『日本語／日本語教育研究』3，pp. 39-55

[3]庵功雄（2015a）「日本語学的知見から見た初級シラバス」，庵功雄・山内博之編『現場に役立つ日本語教育研究１　データに基づく文法シラバス』くろしお出版，pp. 1-14

[4] 庵功雄（2015b）「日本語学的知見から見た中上級シラバス」庵功雄・山内博之編『現場に役立つ日本語教育研究１　データに基づく文法シラバス』くろしお出版，pp. 15-46

[5]稲熊美保（2006）「日本語教育における授受表現指導の再考―母語および第二言語としての授受表現習得研究概観に基づく妥当性の検証―」『愛知文教大学論行集』9，　pp. 37-62.

[6]大曾恵美子(1983)「授動詞文と二名詞句」『日本語教育』50 号，pp. 118-124

[7]大塚純子(1995)「中上級学習者の視点表現の発達について－立場志向文を中心に－」『言語文

化と日本語教育』第 9 号，pp. 281-292.
[8]倉光雅己，日高吉隆（2004）「行為の授受表現『～てあげる／くれる』の文型と提示」『創価大学別科紀要』16 号，pp. 49-65
[9]鹿浦佳子，小林親英（2016）「話者の視点にたった『やりもらい』の教授法―感謝を表す『くれる』と依頼を表す『もらう』－」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』26，pp. 23-40
[10]田中真理（1996）「視点・ヴォイスの習得―文生成テストにおける横断的および縦断的研究―」『日本語教育』88，pp. 104-115
[11]田中真理（2012）「学習者の習得を考慮した日本語教育文法」野田尚史編『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版　pp. 63-82
[12]内藤春菜（2016）「日本語学習者における授受表現の誤用研究―英語圏学習者を中心に―」『日本文学ノート』51，pp. 199-178
[13]山田敏弘（2004）『日本語のベネファクティブ―「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法―』明治書院
[14]渡辺裕司(1992)「授受表現における授受の方向性」『日本語学校論集』18，pp. 35-48

## 教師用指導書および参考書

[1]庵功雄，松岡弘，中西久実子，山田敏弘，高梨信乃（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
[2]市川保子(2005)『初級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク
[3]スリーエーネットワーク（2016）『みんなの日本語　初級Ⅰ　第 2 版　教え方の手引き』スリーエーネットワーク
[4]友松悦子，和栗雅子（2004）『短期集中初級日本語文法総まとめ ポイント 20』スリーエーネットワーク
[5]坂野永理，大野裕，坂根庸子，品川恭子，渡嘉敷恭子（2012）『初級日本語げんき 教師用指導書　第 2 版』The Japan Times